

1月28日（月）朝礼の話

三週間ぶりの朝礼です。

18日・19日の作品展では、皆さんのアイデアや工夫がいっぱいの作品を、たくさん見ることができました。皆さんも、他のクラスや学年の友達の作品を見て、いろいろなことを学んだと思います。

今日は、スポーツ関係のニュースから二つ話をしたいと思います。

一つ目です。

土曜日の夜は、テニスの大坂なおみ選手が、昨年9月の全米オープンテニスに続き、全豪オープンテニスで優勝を飾り、世界ランキングも1位になるという、快挙を達成しました。先生もとてもうれしかったです。大坂選手についてのお話は、またの機会に詳しくしたいと思います。

二つ目です。

プロ野球DeNAの宮崎選手が、母校の大学で自主トレーニングをしていた時のことです。サインをしてもらえなかったことに腹を立てた大学生が、宮崎選手のカードを破って大学の構内に捨てました。さらに、練習前の宮崎選手に『死ね』ということばを浴びせたというニュースがありました。

先生は、このニュースを耳にした時に、大学生の言動にとっても嫌な気持ちになりましたが、一方で「でも、草平小学校の中にも、時々友達同士で『死ね』ということばを言っている子が残念ながらいるのでは？」と思いました。

みなさんはどうでしょう？『死ね』ということばを、簡単に口にしてしまったり、言われて嫌な思いをしている人はいませんか？

先生のお母さんは、64歳の夏に脳の大きな血管が切れて、脳の中で大出血を起こしました。何とか命は助かりましたが、結局それから3年間、寝たきりで自分で動くことはもちろん、ことばを話すこともできませんでした。でもその3年間で、母なりに少しだけ回復し、先生の言う言葉を理解して笑顔を見せたり、号令に合わせて指先を少しだけ動かすことができるようにもなりました。3年目の秋に、誤嚥性の肺炎が原因で亡くなりました。きっと母はまだ死にたくなかったと思います。もっと長生きして孫の成長を見届けたかったと思います。先生も、寝たきりで言葉も交わせない母でしたが、もっともっと生きていてほしかったです。

『死ぬ』ときは、人に言われなくても死ななくてはならないのです。それは、自分が決めることでもなく、人が決めることあでもなく、神様が与えられた運命だと先生は思っています。だから、どの人も与えられた命を一生懸命に生きているのです。『死』とか『命』については、人がとやかく言う問題ではないのです。とても失礼です。

いいですか。どの人の命も、同じ重さなのです。Aちゃんの命は大切に、Bちゃんの命は大切ではないというものではありません。人に向かって『死ね』という言葉は今まで言ってしまっていた人。そんな言葉が口から出てしまう自分自身を、自分の心をしっかり見つめてください。そしてこれからは、二度と言わないよう努力してください。また、草平小学校で、『死ね』なんていう言葉がでないように、みんなで注意をしましょう。そして、誰もが楽しく学校生活を送れる学校にしましょう。

少し話が長くなってしまいましたが、今日は原野先生のお話を聞きます。原野先生は昨年の7月、8月の2カ月間、学校現場ではないところに研修に行ってきました。その時経験したことや学んだことを話されます。しっかり聞きましょう。

これで先生のお話を終わります。